

進行再発乳がん国際連盟（ABC グローバル連盟）について

早いもので乳腺外科標榜から5年半が過ぎ、年間の乳がん手術数は40を超え、のべ化学療法数は400を超え、放射線治療数は50を超え、外来患者数は5000人を越えました。お話をじっくり聞かせて頂くため外来で待ち時間が出ております。この場を借りてお詫び申し上げます。

標榜から時間が経ち、進行再発乳がん（ABC）患者さんも増えてきました。前任の昭和大学病院乳腺外科で前日本乳癌学会理事長の中村清吾教授からABCの治療とケアをご指導頂き、私はABC診療を使命と考えています。また、当院の初代緩和ケア外来を担当させて頂き、一貫して患者さんに寄り添った全人的医療を目指しています。

これらの背景から、ABC診療のための唯一の国際会議のAdvanced Breast Cancer International Consensus Conference（通称ABC、以下ABC会議）に初回から毎回参加しています。今年も11月14日～17日に参加してきました。会議ではより良い治療とケアとともに、QOL（生活の質）と予後の改善について患者さんを交えて話し合います。この会議の参加者は、ABC1では64か国から800人でしたが、今回5回目のABC5では95か国から1800人が参加しており、ABC会議が着実に世界に根付いてきたといえるでしょう。

ABC診療をよりよいものとするためには、患者さんを取り巻く社会環境を変えていくことが大事であるとの認識でABCグローバル連盟が結成され、活動の基盤となるABCグローバル憲章が制定されました。この憲章の日本語版を三輪が担当しています（<https://www.abcgloballiance.org/abc-global-charter/>）。連盟の活動目標の一つとしてABCについての理解を深めることを挙げています。連盟本部の協力のもとで、ABCグローバル連盟として、今年7月の日本乳癌学会学術総会でブースを出させていただき、来訪者にABCについての非常に簡単なアンケートにご協力いただきましたが正解率は低く、まだまだABCへの関心も理解も限られており、今後の啓蒙が大事であると思われました。

ABC会議では、毎回、ABC賞として、ABCの予後改善に貢献者を表彰しており、今回はABC会議創始者である会頭のCardoso先生が表彰されました。表彰

記念講演で、今後 ABC への啓蒙活動に焦点を当てていく旨説明されました。各国での取り組みを写真を交えて紹介され、上記の日本乳癌学会でのブースも取り上げて頂きました（下図写真スライドの下段左から 2 番目の写真とその拡大）。乳がんであることを周りに言いづらいと漏らされる患者さんは少なくありません。気兼ねなく治療を受けられることが患者さんの QOL のみでなく予後にもよいと考え、これからも ABC についての啓蒙を続けていきます。

